

■日時 平成27年8月19日(水) ■天候 晴れ時々曇り

師友塾高校・通 対 京都府立朱雀高校

■球場 駒沢公園硬式野球場 第2試合 4回戦 準決勝 ■試合時間 2時間27分 ■備考

■審判 球審:松山 塁審:山田 家田 宇田川

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	安	失
朱雀	京都	0	0	3	0	0	1	0	0	1	5	5	1
師友塾・通	西中国・広島	0	0	2	0	0	3	0	2	×	7	8	1

朱雀		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	安	失
1	中		上 東 和 弥	5	0	0	0	三ゴ		投飛		二ゴ	中飛			二ゴ			
2	三		佐古田 進太郎	3	2	0	0	投ゴ		遊失		四球		中飛		四球			
3	遊		松 川 哲 也	2	1	2	2	四球		右3		四球		四球		右2			
4	捕		騎 馬 龍 吾	4	0	0	1	三ゴ		三振		三ゴ		三ゴ		中犠			
5	一	投	江 上 安 楠	3	0	0	0		死球	中飛		三振		遊飛		四球			
6	左		坂 井 柊 斗	4	0	0	0		捕犠		三振		三ゴ		中飛	投飛			
7	右		池 田 将 太	4	1	1	0		左飛		三振		右3		投ゴ				
8	投	一	木 村 公 紀	3	0	0	0		三振		投ゴ		一ゴ		死球				
9	二		堤 玲 雄	3	1	2	1			四球		左安	左2		捕邪				
合計				31	5	5	4	残塁:10		併殺:0									
備考																			

■バッテリー

投手
木 村 公 紀
江 上 安 楠

捕手
騎 馬 龍 吾

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
木 村 公 紀	3	15	2	1	4	2
江 上 安 楠	5	26	6	6	4	4

師友塾・通		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	安	失
1	投		山 中 偉 央	4	1	3	4	死球		中安	三直		左2		左安				
2	遊		高 橋 拓 実	5	0	1	0	中飛		三安		投飛	三振		三ゴ				
3	三		三 好 絵 風	4	0	0	1	二飛		四球		投ゴ		三ゴ	三ゴ				
4	捕		中 村 享 平	4	0	1	0	左飛		三ゴ		中飛		中安	四球				
5	一		大 崎 天 嗣	5	0	0	0		三振	三ゴ			三振	三振	遊飛				
6	二		三 好 絵 夢	4	1	1	0		遊ゴ	投ゴ			中安	二ゴ					
7	中		永 谷 海 斗	2	2	0	0		二ゴ		三振		四球		四球				
8	左	右	黄 俊 湖	3	1	1	0			死球	三振		三振		左安				
9	右	左	小 濱 太 一	2	2	1	0			四球	三安		四球		捕失				
合計				33	7	8	5	残塁:10		併殺:0									
備考																			

■バッテリー

投手
山 中 偉 央

捕手
中 村 享 平

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
山 中 偉 央	9	42	5	4	9	4

■戦評

駒沢球場で行われた準決勝第2試合はここまで3試合を危なげなく大差で勝ち上がってきた師友塾高校通信制と2回戦、準々決勝を接戦で勝ち上がってきた京都府立朱雀高校の対戦となった。師友塾山中、朱雀木村と両チームとも主戦に大事なマウンドを託した。試合は初回から両チーム共に得点圏に走者を進めながらも両先発が踏ん張り0-0のまま迎えた3回試合が動き出す。先攻の朱雀は一死二三塁の好機に3番松川の2点適時三塁打で先制するとボークにより1点を追加しこの回3点を奪う。その裏師友塾も無死一二塁から1番山中の適時安打などで2点を返す。4回5回と両チーム追加点を奪えず3-2のまま迎えた6回朱雀は一死から7番池田が三塁打で出塁すると9番堤が適時二塁打を打ち1点を追加する。その裏師友塾は安打と二つの四球でつなぎ二死ながら満塁の好機を作りこの大会チームの得点源である1番山中に打順を回す。ここで朱雀バッテリーにミスが出てまず1点を返しなお二三塁とすると山中の放った打球は遊撃後方の野手の間に落ち二者が生還し師友塾が逆転に成功する。7回8回朱雀に得点を許さなかった師友塾は8回裏朱雀の守備の乱れを逃さず2点を奪い試合を決めにかかる。追い込まれた朱雀は9回一死から2番佐古田が四球で出塁すると主将の3番松川が右翼越の二塁打でつなぎ最後の粘りを見せるが4番騎馬の犠飛により1点を返すのがやがと。7-5で師友塾が勝利し、初の決勝へ進出した。一方敗れた朱雀は時に好機を広げるために犠打を多用する手堅い戦術を織り交ぜながら主将松川を中心とした勝負強くまたどこからでも長打で点を取れる強力打線が勝ち上がりその戦いぶりは全国三位の名にふさわしく持ち味が随所で遺憾なく発揮されたことは言うまでもないだろう。